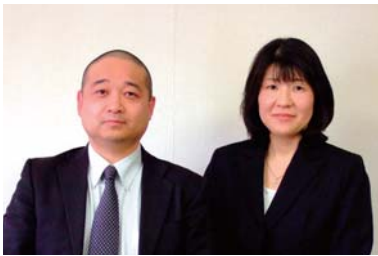




進学ネット

『進学ネット』で学校選びの軸を見つけ、志望理由書を書く

— 福島・私立 尚志高校 —



進路指導部長
橋本孝先生(左)
2学年担任
芳賀美津子先生(右)

School Data

生徒数/1168人(男子541人・女子627人)
普通科30学級、情報総合科3学級
進路状況(2011年度)／大学・短大進学60.0%、専攻進学24.8%、就職11.1%、その他4.1%
福島県郡山市大槻町字垣ノ腰2
TEL 024-951-3500
URL <http://www.shoshi.ed.jp/highschool/>

■ 授業後の生徒の感想

※アンケートより抜粋、直筆原稿を掲載

Q今日の講座は役に立ちましたか。講座を受けてよかった点は何かですか。

どのように書けばいいかわからなかった志望理由書の書き方のコツがわかりました。また、オープンキャンパスや取り寄せた資料の重要性も改めて感じました。

とても役に立ちました。どのようして志望理由書を取り寄せるかわかりました。また、再度志望校のホームページを確認したことや新たに知ったこともあり、ためになりました。

Q自分の志望理由書を改善したほうが良い点はどこですか。

夏休みにオープンキャンパスに行くのでお話を聞けたりです。もっと大学への知識を増やして自分がどこへ行ってみたいという気持ちや伝えたいことを書きたいと思っています。

他の大学や同じ学部との違いが書けなかった喜び、自分が大学へなにか志望したのかを明確に書けなかったこと。

「オープンキャンパスで取り寄せた資料の重要性がわかった」「再度志望校のホームページを確認してよかった」など、今回の学習が役に立ったことを実感する生徒の声が多く見られた。また授業後も「オープンキャンパスに行き、学校の知識を増やしたい」など、次の行動につなげたり、課題を発見することができているようだ。

員見違えるほど内容が充実します」という進路担当指導部長の橋本孝先生。「AO・推薦入試は専願募集がほとんどです。このためミスマッチは命取り。志望理由書を書きながら、本当に自分に合っているのかやりたいことができるのかを確認することが、実はこの授業の大きな目的です」と2学年担任で昨年進路を担当した芳賀美津子先生は語る。

授業の後、個別指導によって全員が志望理由書を完成させ

福島県郡山市にある尚志高校では、生徒の約6割が大学・短大に進学する。なかでもAO・推薦入試を利用するケースが増えており、志望理由書について相談に来る生徒への個別指導が困難になってきた。そこで09年度から『進学ネット』を使った志望理由書作成の進路学習をスタートした。11年度は3学年のAO・推薦入試希望者160人を3グループに分け、夏休みを利用して、2時間ずつかけて実施した。

授業では、まずなんの準備もせずに、その時点で最も行きたい学校の志望理由書を書いてみる。次に進学先で学びたいことや求める雰囲気など、自分なりの学校選

**本当に今の志望校でいいのか
最終確認しながら調べ、書く**

びのポイントを書きだす。このリストをもとに『進学ネット』で志望校や希望に合う学校・学部・学科を調べ、学校情報やいいと思うポイントを探し出す。最後に『進学ネット』で調べた結果をもとに、もう一度志望理由書を書く。お互いの書いた志望理由書の評価しあうなど、グループワークも取り入れて進め、最後に書き方のポイントを振り返って授業は終了。

「生徒は休み時間も夢中で『進学ネット』のいろいろなページを見ていました。次第に何を基準に学校を選べばいいのか明確になったようです。また『進学ネット』には学問、資格、地域などさまざまな検索軸があるので、興味・関心の方向があいまいな生徒も、学校を見る視点や、自分に合う学校を見しやすかったです。『進学ネット』で調べてから志望理由書を書き直すと、全

員見違えるほど内容が充実します」という進路担当指導部長の橋本孝先生。「AO・推薦入試は専願募集がほとんどです。このためミスマッチは命取り。志望理由書を書きながら、本当に自分に合っているのかやりたいことができるのかを確認することが、実はこの授業の大きな目的です」と2学年担任で昨年進路を担当した芳賀美津子先生は語る。

授業の後、個別指導によって全員が志望理由書を完成させ

るのだが、このプログラムを導入してから、個別指導は格段に効率的になったという。

面接練習でも志望理由書はつきり語れる生徒が増加

進路指導部では、一人ひとりの個性をつかみ、本当に自分に合う学校に進む手助けをしたいと考えている。特に指定校推薦やAO・推薦入試の場合、一般入学生に対して根拠のない劣等感を抱える学生もいる。入学後、充実した楽しい学生生活を送るためにも、ベストを尽くして準備するよう指導している。

「AO・推薦入試では、面接も重要です。以前は志望校の魅力を語るのに精いっぱいでしたが、志望理由書の学習が始まってから、自分が何をやりたいのか、なぜその学校に興味をもったのかを語れる生徒が増えました。面接指導ではその部分を、さらに確信をもって相手に伝えられるようになることを目標にしています。指導しすぎて、本人とは別の人間になるような指導はせず、自然体の自分を100%出せるように気をつけています。その延長にある合格が本人にとっても、私たちにとっても最もうれしい結果だと信じているからです」と橋本先生。

同校の卒業生には上級学校進学者のミスマッチが、あまり見られないという。また卒業生の多くが、大学卒業や就職の報告などで、何度も学校を訪れる。これが先生方の誇りだという。



文理・科目選択
応援BOOK

『文理・科目選択応援BOOK』で 保護者と共に未来を考える

— 静岡・県立 浜松南高校 —



進路指導課・2学年主任
村松輝久先生(左)
3学年主任
中野雅弘先生(右)

School Data

生徒数/1188人(男子696人・女子492人)
普通科26学級、理数科3学級
進路状況(2011年度)/大学・短大進学87.0%、専各進学4.7%、
就職1.4%、その他6.9%
静岡県浜松市南区米津町961
TEL 053-441-1486
URL <http://www.shizuoka-c.ed.jp/hamamatsuminami-h/>

「文理選択」までの 進路学習の流れ

6月	キャリアデザイン講演会①	一生涯のキャリアを見据えた文理選択の必要性について村松先生が講演
8月	体験学習・ボランティア	大学・医療機関での体験講座、オープンキャンパスへの参加、職業人インタビューなど5つから希望する1つを選択
8月	保護者向け文理選択説明会+キャリアデザイン講演会②	先生方による文理選択の概要説明とリクルートによる講演
9月	生徒向け文理選択説明会+キャリアデザイン講演会③	先生方による文理選択の概要説明とリクルートによる講演
9月	OB講話	教員、自営業、アーティストなど地域の職業人をクラスに一人ずつ招き、仕事を選んだきっかけ、仕事内容ややりがいを講演
11月	キャリアデザイン講演会④	中京大の教員を招き、キャリア設計の大切さなどを講演
11月		文理選択最終決定

上記の行事と並行して、年間を通して定期的に学習習慣調査や面談を実施。面談では進路学習、教科学習の状況をふまえて、担任が一人ひとりの生徒と向き合い、目標設定とそれに向けた行動を促す。今後も進路指導と学習指導を一体的に考え、主体的に動ける社会人基礎力と、長期的な視野で進路決定を行う力を育てたいと考えている。

リクルートの 保護者向け講演の概要

入試・進学

科目の得意・不得意を基準に文系・理系や学部・学科を選ぶリスク、安易な学校選択のリスク、大学における中退率の上昇、学費の実態と進学資金準備法など

就職

現在の大卒者の就職環境、大学生の就職活動のスケジュール、企業が採用で重視する点、企業の選考方法など

進学サポートコミュニケーション

進路決定にあたる保護者と高校生の意識のギャップ、3年後生き生きとした姿のわが子を見るために、保護者がすべきサポートなど

「進学も就職も刻一刻と状況が変わる現在において、最新の動向をリアルに伝えてもらえる機会は貴重ですね」と中野先生。高校生の進路選択に保護者がどうかかわればいいのかについてヒントが提示された点も好評。保護者の満足度は高かったようだ。

就業環境や大学の今を 伝える講演が好評

文理選択に向けては、例年1学年の6月に文系・理系の概要を説明する文理選択

「計画を共有すべく、生徒にも1学期の初日に同じものを配っています」と語る昨年度の2学年主任の中野雅弘先生。

や意義を担任に伝えている。

このため進路指導課では、自分で進路を決める主体性を育てることに力を入れている。1学年では文理選択に向けた社会情勢の研究、2学年では志望校決定に向けた学部・学科研究を主に行い、3学年になると学力向上に集中するが、詳細な進路計画表を作り、こうした進路行事の目的や意義を担任に伝えている。

静岡県立浜松南高校の生徒は、9割以上が4年制大学への進学を希望する。大学合格を最優先に考えるあまり、偏差値を基準に安易に進学先を決めてしまう傾向が根深くあることが長年の課題だった。

に文系・理系の概要を説明する文理選択

「高校では文系・理系に偏らず、5教科7科目を学び基礎学力をしっかりとつけることが、大学で学ぶ質問の面白さを理解する出発点になると思います。文理選択は、文

超え、関心の高さがうかがえた。

「高校では文系・理系に偏らず、5教科7科目を学び基礎学力をしっかりとつけることが、大学で学ぶ質問の面白さを理解する出発点になると思います。文理選択は、文

説明会を行っていた。しかしこれだけ変化の激しい時代において、「なんのために進学するのか」、「大学卒業後どう社会とかわるのか」を踏まえなければ、正しい選択はできないという危機感があった。そこで昨年度は、新たに4回の「キャリアデザイン講演会」を実施した(詳細は上図)。

生徒の語る文理選択の理由が明確に

「文理・科目選択応援BOOK」は、親子で会話するきっかけ作りのために、あえて保護者に配った。「この本も冒頭の記事で

「社会で求められる力」を紹介しています。リクルートらしい特色だと思いました」と村松先生も評価している。新たな行事を導入した今年には例年に比べて自分が文系・理系を選んだ理由を、きちんと説明できる生徒が増えたと感じているようだ。

「文理・科目選択応援BOOK」は、親子で会話するきっかけ作りのために、あえて保護者に配った。「この本も冒頭の記事で

「社会で求められる力」を紹介しています。リクルートらしい特色だと思いました」と村松先生も評価している。新たな行事を導入した今年には例年に比べて自分が文系・理系を選んだ理由を、きちんと説明できる生徒が増えたと感じているようだ。

系・理系いずれかの科目を捨てる決断ではなく、将来を考える大きなチャンスだと伝えていきます。この内容に加えて行ったリクルートの講演は、就職市場に詳しい企業ならではのリアルな内容で、説得力がありました」と進路指導課で昨年度の1学年主任の村松輝久先生。9月には同様の講演会を生徒向けに実施し、大学卒業後まで見据えた文理選択の重要性を伝えた。